

学習三原則 — 生活を正す 目標を持つ 継続する



# 育友会報

学校法人飛騨学園 高山西高等学校

〒506-0059 岐阜県高山市下林町353  
TEL0577-32-2590/FAX0577-33-9911

発行 第45号(卒業記念号)  
高山西高等学校 育友会 文化委員会  
URL <http://www.takanishi.ed.jp>



ISO14001認証取得

## 「ポストコロナの時代に備えて」

育友会長 下畑了三



3年生の皆さん、この度は、誠に卒業おめでとうございませう。また、保護者の皆様には、日頃の育友会活動にご理解とご協力をいただき心より御礼申し上げます。

今年の卒業生は、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった年に入学しました。さっそく入学式から感染対策のためのさまざまな制約があり、3年間を通して勉強にも部活動にも多大な影響がありました。市内で初めて発生した校内のクラスターにより全校が休校になるという非常事態の際には、生徒や保護者の皆さんはもとより、学校全体が大変な混乱に陥りました。今年の5月には季節性インフルエンザと同じ5類へ移行することが政府から発表され、まさに皆さんの高校生活は新型コロナウイルスと戦い過ぎた3年間だったと感慨を新たにしています。

この間には、一年延期にて開催された東京オリンピックがありました。水泳の池江璃花子選手は、数年前に大変な病気に見舞われましたが、本人の努力と素晴らしいサポートに支えられリレー種目に選手として復活出場し、メダルには届かなかったものの彼女の泳ぐ姿が日本中に勇気を与えました。また、卓球の混合ダブルスでは、水谷隼選手と伊藤美誠選手が日本史上初、中国ペアを撃破して金メダルを手にするなど、選手たちの努力の積み重ねに裏打ちされた活躍には心を打たれました。

また、昨年のサッカーワールドカップでは、ブラジルやポルトガルなどのようなスター選手がいないうなかで決勝トーナメントへ駒を進めるといふ日本チームの大躍進が記憶に新しく、選手達の最後まで諦めない気持ちに、応援する側も心が熱くなり、深夜にも関わらず日本中が大きな盛り上がりを見せました。

こうしてみると、決して勝ち目の無いように見えた対戦も、それぞれの個性を見極め、また発掘し、そして磨きあげ、強みをより強くすることで、自分たち独自の戦い方を作ってきたように思います。若く経験が少なくても、素晴らしい指導者との出会いによって選手達を大きく花開かせたケースもあったことでしょう。

高山西高校では、「夢 叶える」の実現に向けて、まさに、それぞれの個性を活かす教育が実践されています。走るの速い人、楽器が大好きな人、勉強が

好きで、話すが上手い人など、いろいろな個性が集まった学校だと思えます。バラエティに富んだ人材が集まるこの学校は、本当に刺激的で楽しいことばかりだったのではないのでしょうか。そしてそれに応えることが出来る先生方の存在も、とても大きかったのではないかと思います。朝早くから夜遅くまで熱心にご指導くださった先生方には、感謝するばかりです。先日、息子が高校生活について聞いてみたところ、第一声が「3年間あつという間やっただ」とのこと。それは裏返せば、高校での生活やクラスメイトとの時間が充実していたということだと思いい、親として、少しホッとした瞬間でした。

新型コロナウイルスに翻弄された3年間は、リモート授業、外出自粛という状況のなかで、生徒たちは画面から学び画面で楽しむ、そんな時間が増えてしまいました。いよいよポストコロナの時代になります。新しい価値観や新しい常識など、私たち親世代が経験してきいたものとは大きく違っています。時代が来ることは間違いないと、せひとも、これからは画面では触れられなかったこと、画面からは伝わらなかつたことに直に触れながら、どんな人生経験を積んでもらいたいと思います。山に登らなければ、山の素晴らしさは決してわかりません。経験して失敗して、またチャレンジして遅くなって欲しいと思います。3年間、ともに学んだクラスメイトや部活動の仲間、これからもずっと支えあえる存在であり、先生方はこれからもずっと力になってくださる存在です。どうぞ思い切つて夢に向かつて羽ばたいてください。

## 「心優しき最強世代へ」

校長 小林隆徳



3年前、故安倍首相による深刻な訴えと共に全国一斉休校で中学校の終わりを迎えた。高校入學式もそこそこ2か月の一斉休校が始まった。が卒業生の皆さんの生活で、それからは、仙台育英高校野球部須江監督の優勝インタビューに、報われる思いをした高校生。その保護者の皆さんも相当数おられるのではないのでしょうか。「我々大人が過ごしてきた高校生活とまったく違う」高校生活を強いられてきた今の3年生。「青春つてすごく密なので」が全国

の多くの人々の心を捉えました。更に続きます。「全部ダメだダメだと言われて、活動しててもどこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまふような苦しい中で、でも本当に諦めないでやってくれたこと、でも、それをさせてくれたのは僕たちだけじゃなく、全国の高校生のみならずが本当にやってくれて、(中略)……暗い中でも走つて行つたので、本当に全ての高校生の努力の賜物が、ただただ最後僕たちがここに立ったというだけなので、せひ全国の高校生に拍手をしてもらえたらなと思います」……監督自身と選手たちの「絶望」との闘いを、全国の球児にとどまらず、すべての高校生の全ての活動に広げ重ね合わせた……。そこに多くの皆さんの共感が集まったのではないかと思います。

「休校」という事態は3年前、日本に限らず世界中の学校で起こってしまいました。そんな状況下、本校の生徒たちも同様にほとんどの行事を奪われ、大会も中止で涙を飲んだ1年目、働かずとも、自暴自棄にはならず、絶望すれども再び立ち上がりました。「活動するな」と言つても、自主練習、ランニングをどこかでやつて。毎朝暗いうちに学校を開けるのですが、それより先に学校へ来て練習する生徒の姿があるのです。卒業式も入學式もちゃんと出来なかつたから、地元での最高の思い出を作つて巣立ちたいと立ち上がった生徒たちもいます。

未曾有の緊急事態は、最強の生徒たちを生み出しました。身を屈して、分を守り、天の時を待つ。蛟龍の淵にひそむは昇らんがためである。心優しき最強世代として、もつと高く、もつと大きく羽ばたいてほしいと切に願っています。最強世代のことです。きつとやつてくれることでしょう。

最強世代は進路でも頑張つていきます。現時点でも、岐阜大学医学部医学科、マリアンナ医科大学医学部医学科、岐阜薬科大学、東京都立大学、鹿屋体育大学、慶應義塾大学等、難関に合格してくれています。彼ら、彼女らがその能力を最大限に発揮し、それぞれの高い志を果たしてくることを祈るばかりです。

今年度の全国高校総体には剣道女子団体・女子個人・アーチェリー男子個人、レスリング男子個人と、4種目が出場しました。レスリングの直井君、田近君は、グレコローマンの全国大会進出も勝ち取つてきています。県予選での陸上の女子総合3位も初のことで、バスケットボール男子があと一歩！野球も秋はベスト8。「飛騨から甲子園」に一歩ずつ近づいて欲しいなと思います。ウインドアンサンブルは県吹奏楽コンクール県知事賞に返り咲きました。今年度はORANGE RAINGEとのコラボに



る状況になっていきます。「名古屋大学が100点分を50点に圧縮するんだから……」プログラミングの配点は低い「でしょ……」という「正常性バイアス」たっぷりのお話にも少し安心できるかもしれません。しかし50点といえは理科基礎と同じであり、そのためにたいは2単位を当てているのです。しかも補習までしています。そして「1点は何百人もが殺到する」とは、今も変わりはありません。だとすれば、正面切つて、あるいは補習対応で、これに向かうしかないと考えています。試行問題、数学の先生方と一緒に解いてみました。実際に解いてみて、「読解力」さえあれば(時間はかかりませんが)8割方は取ることができま

し、これを定められた時間内で解き切るには訓練が必要です。プログラミング言語「Python」などの演習、n進法への習熟、箱ひげ図など統計の扱いへの習熟にも時間をかける必要があるでしょう。「読解力」文章をしっかりと読んで理解できる方は、ここでも必要です。「情報I」対策でも見えてくる場所は同じです。日々の授業、補習で意識して身につけて欲しい力は、自力でしっかりと文章を読み取れる力だということです。何度でも、言ってますね。言わせてください。具体的には以下のような力が要るので

- ・ 文の構造がわかって読める
- ・ 代名詞が指す内容がわかる
- ・ 言い換え、二つの文が同じ意味なのか違うのかがわかる
- ・ 文章を簡単な絵や図にすることができ「定義」の正確な理解
- ・ こういったことを、強く意識しながら、ぜひ「読解力」を高めて欲しいと思います。
- ・ こういう力がしっかり身につくについて、「情報I」にもしっかりと対応できますし、Society 5.0でAIに負けない人材になりうるし、高貴なる使命を全うする人材になり得るので

卒業生諸君のたいなる活躍を期待して  
います。  
Bon Voyage!  
Noblesse Oblige

低い平均点となりました。理科②(物理・化学・生物)は科目間の平均点差が大きく開いたため、得点調整が行われる見込みです。一方、地歴Bの3科目の平均点は60・61点と科目間による差が小さく、科目選択による不公平感ほとんど感じられません。

その結果として、5教科7科目において、文系理系とも平均点がアップし、高得点層が増加しました。国公立大志望者を中心とする5教科7科目(900点満点)の受験者平均点は、文系が542点(+22.5点)、理系が540点(+30.8点)と文理ともに大きく上昇しました。前述したように数学2科目の平均点アップの影響が大きく出ています。また、文系に比べ理系の上がり幅が大きいのは、数学2科目に加え選択者の多い「物理」「化学」でも平均点が上昇したことが要因とみられています。昨年の共通テストでは高得点を取りづらかった様子がうかがえましたが、今年は一転して得点率8割(720点)以上の高得点層が前年から倍増しました。高得点者の増加にともない、とくに難関国立大理系学部や医学科などでは、予想ボーダー得点率が上昇した大学が散見されます。

本校では、今年度70名の生徒がセンター試験に出席しました。受験生の頑張りもあり、実力を発揮できた生徒が多かったように感じています。普段とは異なる緊張感のなか、思わぬ失点をした受験生もいましたが、受験生には得点に一喜一憂せず、それぞれの夢の実現に向けて、力強く歩を進めていく欲しいと思います。本校の生徒は、国公立大学の2次試験・私立大学の一般入試まで、初志貫徹の強い意志を持って計画的な学習に徹し、努力を必ず合格という形にしてくれると信じています。また、1年生・2年生は大学入共通テストの変化を踏まえ、計画的に勉強することで少しでも目標点に近づき、それを超えていけるように頑張つて欲しいと思います。

### 部活動の状況

部活動においても、多くの大会が中止となり、残念な思いをした生徒諸君も多かったと思

いますが、実施された大会の結果を以下に記します。なお、個人種目については入賞者のみ氏名を記載しています。

#### 全国大会出場

- 「躍動の青い力 四国総体2022」(インターハイ) 3競技4種目出場
- アーチery男子個人、剣道女子団体、女子個人(2年連続ベスト8 樋口 恵淑)、レスリング男子フリー
- 「いちご会とちぎ団体」に岐阜県選抜選手として3競技3種目7名出場
- レスリング、バスケットボール男子、剣道女子(第5位)

- 全国高等学校剣道選抜大会 女子団体出場
- 全国高等学校レスリング選抜大会 3名出場
- レスリングJOCジュニアオリンピックカップ 4名出場(3位 直井 夢希)
- 全国高校生グレコローマンスタイルレスリング選手権大会出場 2名出場
- 男子 60kg(第7位 直井 夢希)
- 全国高等学校総合文化祭(ワインドアンサンブル部) 出場
- 全国パソコン技能競技大会
- 全国高校生英語ディベート大会岐阜・愛知 三重合同予選会(2年連続優勝)
- 全国高校生英語ディベート大会(6位)

#### 東海大会出場

- 東海高等学校総合体育大会出場
- 6競技17種目出場
- アーチery男子団体、女子個人、男子ハンドボール、男子バスケットボール(第4位)
- 陸上女子100mH・1500m・走高跳・400mH・3000m・三段跳
- 剣道・女子団体(第3位)、女子個人(5位)
- 樋口 恵淑、男子団体
- レスリング男子フリー(3位 直井 夢希)・男子グレコ(優勝 直井 夢希、第3位 田近航)・女子フリー(第4位 圓山 倅羽)
- 東海吹奏楽コンクール大編成の部 銀賞
- 東海高等学校選抜ハンドボール選手権大会出場
- 東海高等学校剣道選抜大会

- 男子団体3位・女子団体優勝
- 東海新人大会 3競技10種目出場
- レスリング男子個人、男子ハンドボール、陸上男子1500m・5000m・4000mH
- 陸上女子800m・1500m・3000m・走幅跳・三段跳

以上のように多くの部で優秀な成績を収めてくれました。本来なら出場者全員を紹介するのが本意ですが、入賞者のみの紹介とさせていただきます。また、県大会では更に多くの部が優秀な成績を収めています。詳しくはホームページをご覧ください。目に見える形での成績ばかりではありません。体育系部活動においても、文化系部活動においても、生徒が毎日の部活動に取り組む姿は、本当に輝いています。部活動を通して、人間的に大きく成長する生徒の姿が見受けられません。

### さらなる飛躍を目指して

今後、高山西高等学校は、文武両道の高校としてさらに飛躍したい、しなくてはならない、と強く感じています。本校のキャッチフレーズの一つに「生徒が自慢の学校」があります。西高校の生徒たちは、実に健気で、ひたむきで、一心な姿で勉強や部活動に日々努力しています。そんな生徒たちの誇らしい姿を目にすると、我々も生徒たちの「夢」をかなえたいという使命感にかられます。また、そんな生徒たちに囲まれながらも学校生活を送れることに日々幸せを感じます。私たち教職員全員で、今一度大切なお子様をお預かりしているという責任を自覚し、生徒たち一人ひとりの「夢をかなえる」のために、全力でサポートしていきます。そして、「自慢の生徒たち」とともに、さらなる高みを目指します。

# 「今を大切に」

3年保護者 松森 純子

息子は中学1年生でハンドボールを始め、本人も私たち親も、ルールすら知らない未知の世界に踏み込みました。右も左も分からず自信も余裕もない状態で、強いチームの中に入っていくことはとても大変だったことと思います。私は息子のメンタルなど心配ばかりしていましたが、息子はチームメイトの大きな支えのおかげで厳しい練習も乗り越えてきました。

そしていよいよ高校の進路を決めるとき、息子もハンドボールを極めたいと西高校への入学を希望しました。強豪である西ハンドボール部の一員として本当にやりきることができたらどうか、と私達は大変気がかりでした。しかし、本人の意思が堅かったため精一杯応援することに決め、3年後は西高校で頑張れて良かったと思っていられることを願いました。

そんな期待と不安を抱きながら無事に入学できたものの、コロナ禍で一斉休校、部活動禁止、外出すらできずに自宅の部屋に閉じこもる姿が見られな日々が3年の間に幾度もありました。休校だったある日の夕方、息子の部屋からト



タバタと大きな音がするので驚いてそこと様子を伺うと、どうやらオンラインで部活動のミーティングを行っていたようでした。タブレットから聞こえる掛け声にあわせて、画面越しの部員達とスクワットをしていました。本来ならみんな広い体育館を走り回り、コミュニケーションを取りながらパス練習でもシュート練習でも、やりたことはたくさんあるだろうに……。狭い部屋で、誰も会ったこともできないなんて……。私はとても悲しくなり、部員一人一人の顔が思い浮かんで、何もできないことが悔しくて涙が出ました。しかし、彼らはただそつやつと現状を受け入れ、今やれるではなく、今の状況を冷静に受け入れ、今やれること、楽しめること、やりがいと言えるものを一生懸命に探し、それを実行しようとしているのだと気が付きました。

コロナの波が少し落ち着くと徐々に大会が再開され、遠征の数も増えてきました。部活動ができることに感謝しながら厳しい練習に真剣に挑み、また仲間との楽しい思い出もたくさんできたようです。顧問の山下先生や滝村コーチには、大変な状況のなか常に感染防止対策にご配慮いただきながら、手厚くご指導くださったことに心から感謝しております。

やっことで観客試合となったのは2年生の冬、新人戦でした。人数制限や声を出さず拍手だけで応援という条件はありましたが、それでも初めて保護者の方々と一緒に会場で応援できる嬉しさは格別でした。白熱した試合展開、そして無事に勝利した喜びのなか、ふと我に返ると、力が入って叩きすぎた両方の手のひらが真っ赤に腫れ上がっていて、皆でそれを見せ合い、笑い合った

ことも良い思い出です。引退となった試合ではメガホンを使った応援ができて会場が沸きました。前半は大差で負けていましたが、固唾を飲んで見守った後半戦では、正確な攻めと粘り強いディフェンス、チームワークの良さで西高の底力を見せつけ、みるみる10点差が縮み激戦となり、鳥肌が立つほどの最高の試合を見せてくれたことは忘れられません。

卒業目前の息子に、3年間どうだったか聞いてみました。「沢山のよい人達に恵まれて毎日が充実していた。西高校に入ってよかった」その言葉を聞き、私たちは安堵し改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。3年間を振り返った時そう思えたのは、仲間を大切にしたい、当たり前が当たり前ではなかった苦しい状況下であっても、今できることを一生懸命に積み重ねてきたからです。その学びを忘れず「今」この瞬間を大切に、「今」という過程を思い切り楽しんで欲しいと願っています。

最後になりましたが、先生方を始め、お世話になったたくさんの方々、3年間、誠にありがとうございました。高山西高校の、今後益々のご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。

# 「コロナ禍で得た宝物」

3年保護者 小林 由紀子

約3年前、高校の進学先を決める際、娘には自分の人生なのだからよく考え自分で決めるよう伝えました。そして娘の出した答えは西高校の特進Iクラスへの進学でした。特Iクラスが大変だということは以前から聞いていたので、3年間本当にやっつけていけるのだろうかとお母さんが心配になったほどです。と言うのも娘はロングスリーパーで中学時代はテスト前であっても8時間睡眠が必須で、しかも、のんびりおっとりとした性格なので「相応な覚悟が無いと3年間やっつけていけない」と本人に話した事を覚えています。

そして、迎えた入学式。世の中がコロナで混乱し始めた最中に高校生活がスタートし、当時はコロナもすぐに終息するものだと思っていたのでまさか高校の3年間がコロナに振り回される事になるとは想像していませんでした。前代未聞の休校から始まった高校生活は、先生やクラスメイトと打ち解ける間もなく自宅での動画授業がスタートし戸惑う事も多かったように思います。先生方におかれましてはも初めて尽くしの手探り状態でご苦労も多かったことと思います。そしてようやく登校出来るようになり、高校生活にも少し慣れてきたらと思ったころ、また休校の繰り返しで特Iクラスならではのハードな生活に慣れきれないまま気が付けば2年生になっていました。

2年生になると文理選択により娘は理系を選択する事に……。娘は生粋の文系脳にもかかわらず夢実現のために選択した理系科目に溺死寸前でした。しかも、追い討ちをかけるように英語ディベートも始まり学校生活は一気にアクセル全開に……。あわやノックダウン寸前のところでなんとか踏ん張っているような状態でした。英語ディベートが始まったころは、ただただ大変なだけに思え、失礼ながら「どうしてメンバーになつてしまったのか……」と心配するばかりでした。しかし、練習試合や大会での経験を重ねることに娘の表情に輝きが増してゆくのわかり、ディベートの面白さや、やり甲斐を見出せたのだと感じました。そんな娘を見ているうちに、いつしか私までもワクワクした気持ちで娘を応援していたのでした。本来なら遠方でなかなか対戦することが出



来ない強豪校との練習試合もコロナ禍を味方にして多く経験させて頂くことができ、その結果、全国大会出場という大きな目標を達成することができました。堀尾先生の熱意あるご指導のおかげで娘はディベートの活動を通じて多くの事を学び、かけがえのない宝物ができました。

また、受験の際に岩坂先生をはじめとする先生方にはお忙しいなか、面接練習や志望理由書の添削など熱心に、そしてきめ細やかにご指導頂き、そのおかげで娘は自信をもつて本番に臨むことが出来ました。今、この3年間を振り返って感じることは、特Iクラスは確かに大変ではあります。しかし、それ以上に得られる事の方がはるかに大きいということです。

3年前、どうしても夢を叶えたいから西高校の特Iに行く。と言っていた娘は、この春、夢に向かって大きな一歩を踏み出すことができます。時にはボロボロになりながらも乗り越え、目標を達成することができたのも愛情深く熱心に指導下さった先生方と、高い志を持って共に学んできた明るく優しい仲間の存在があったからです。特Iクラスでの濃密な3年間は、この先の人生においてもきっと娘の背中を押してくれることと思います。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

最後となりましたが、この春卒業される3年生の皆さん西高校での思い出を胸にどうか大きく羽ばたいて下さい。応援しています！  
3年間、本当にありがとうございました。

# 「支えて下さる人たちと」

3年保護者 渡邊 久美子

「インターハイに出たい！」という強い思いから、息子は練習が厳しいと言われる陸上部に入るため西高校への進学を決めました。

体力的にも、また先生方のご指導も甘えを許さない厳しいものですが、もともと目標のためなら努力を惜しまない性格の息子は「自分はこの力を求めていた」と部活動での練習に加え、勉強の合間に自主練習に励んだり、家では暇さえあれば筋肉のケアに動んだりしていました。また、陸上部は本当に仲が良く、土日になると部活動の後でも5〜6人が我が家を集まり、体を使って遊んだり、走りに行ったりと、とにかく毎日が身体づくりの生活でした。記録もどんどん伸びていき、2年生が終わるころの新人戦では、幅跳び、400mハードルと、ともに入賞できるようになりました。

しかし、インターハイへの道を順調に進めていた矢先の3年生の春、足に大きな怪我をし、インターハイどころか予選通過さえ危ぶまれる夏となってしまう。インターハイだけを目標に努力を重ねていきた息子にとっては絶望でしかなく、「もう走れない」大会に出ても意味がない「このまま引退する」と言うほど心が折れてしまったよ



うでした。インターハイに向けて座り方一つにまで気を配るほど、毎日毎日努力をしてきた姿を間近で見えたからこそ、その気持ちが痛いほどわかり、息子が投げやりな言葉を口にするたびに私も泣きたい気持ちになりました。でも、母として息子には辛い事に負けない人であって欲しい。「このまま終わってしまった方がいいのか」「今までお世話になった人達に最後まで頑張る姿を見せるべきじゃないのか」「腐るな！」とあえて厳しい言葉をかけました。それができたのは心が折れた息子の傍には、同じ志を持ち、先輩も後輩も関係なく、苦楽をともにした陸上部の仲間たちがいつも寄り添ってくれていたからです。そんな仲間には、息子自身も私には言えない悔しい思いや、陸上に対する思いを打ち明けていたようです。

そして引退となる最後の大会を目前に控えながらも、いまだ完治はしていない息子でしたが、「どんな結果でも出る」と言ってくれました。どんな思いをもって決めたのか、その思いに至るまでどれだけ苦しんだのかを考えると、息子がそれでも走ると決意した事が本当に嬉しく涙が出ました。私自身もその思いを受け止め、どんな姿でも見届けようと心に決めました。大会では出場した種目すべて決勝に残り、頑張りをかせてくれた息子。すべての競技を終え、仲間達とともに笑い合う完全燃焼した清々しい顔は、今でも忘れられません。努力を重ねても、どんなに頑張っても、うまくいかず心が折れる事はこの先たくさんあると思えますが、この経験をした息子は、その度に立ち向かい乗り越えていくのだらうと胸が熱くなった大会でした。

## 育友会活動報告(後期)

(令和4年)

7～8月上旬／請願署名運動

署名総数 388,098名(本校19,360名)  
来年度補助金額(1人あたり)372,730円  
以上の結果となりました。ご協力ありがとうございました。

8月1日／育友会報発行(第1回)

8月25日／模擬面接(3年生の就職希望者対象)

9月28日／飛騨地区高等学校育友会連合会  
指導者研修会

10月27日／岐阜県高等学校PTフォーラム

11月15日／私立高等学校保護者連合会  
第2回常任幹事会

(令和5年)

2月20日／第3回役員会、親父ゼミナール

3月1日／育有会報発行(第2回)

3月(未定)／育友会選考委員会

そしてもう一つ。この大会の日、競技場には「康平最後やでな」と駆けつけてくれた中学のころからの友達。「よかったぞー」と声をかけてくださった先生やコーチ。遠くで領きながら見届け、競技場で関わってくださった方々。何より「お前ならできる！頑張れ康平!!」と涙を流しながら声を張り上げ、応援してくれていた陸上部の仲間たち。本当に多くの方々が息子の頑張りを見守っていてくださり、息子の周りにはこんなにも支えてくださる人たちがいたのだと、息子の恵まれた環境に心から感謝しました。苦しい思いをして乗り越えたのは紛れもなく息子自身ですが、それができたのは彼一人の力ではなく、たくさん支えがあったからだということに、何よりも感謝できる息子であってほしいと願っています。

最後になりましたが、息子はこの3年間、高山西高校で学業、部活動、生活において、本当に大きく成長したと親として感じています。ご指導いただいた先生方を始めとし、息子に関わってくくださったすべての皆様に感謝申し上げます。

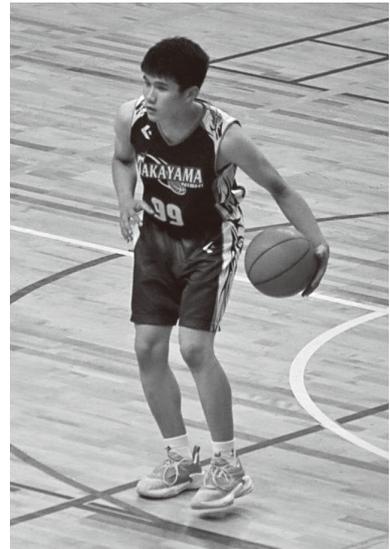


## 「経験を糧に」

3年A組 上野宏次朗

高山西高等学校で過ごした3年間は、長いようでもあったという間に過ぎ去って行き、もう卒業を迎えます。私にとってこの3年間は、西高校の吹雪クラスに入り、バスケットボール部に入部し、さまざまな経験をすることができた3年間でした。

まずは部活動です。高山西高等学校には全国大会に出場するような強い部活動がたくさんあります。私が所属していたバスケットボール部も県内では強く、全国大会出場をかけて、日々厳しい練習をしています。私が入学する前の2019年には全国大会に出場しています。それが魅力で高山西高等学校に進学することを決めました。しかし、1年生の初めから新型コロナウイルスの影響でチーム練習ができませんでした。毎日が我慢の日々でしたが、それでも少しずつ練習ができるようになり、短い時間でしたが練習が再開されました。再開された練習はともすれば高く、ここなら成長できると思い練習に励みました。ですが、やはりコロナの影響もあり遠征などには行けず、他の学校との試合がなかなかできませんでした。2年生になると少しずつ練習試合も増えていき、強いチームと試合ができてとても良い経験になりました。先輩方や同級生に恵まれて、東海大会では3位になりました。私自身は先輩方に遠慮してしまい消極的なプレイをして迷惑をかけてしまったけれど、励ましてくれたチームメイトには感謝しています。自分たちが最上級生となったラストの一年は、いままです全国大会に出場できていないので、みんなで行こうと気合が入りました。コロナの影響もありながら、遠征が多くできるようになり、たくさん試合をしました。1年生のころから試合に出してくださった打江謙二先生に、全国大会に出場して恩返ししたいと思いましたが、自分の実力不足でチームを勝たせることができず、高校バスケットが終わりました。いろいろな悔しい思いもありましたが、バスケット面だけではなく、



心身ともに成長できたと思っています。チームメイトやコーチ、保護者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

本来なら、西高祭、体育祭、研修旅行と、とても楽しい行事があるはずでしたが、これもまた新型コロナウイルスの影響で1年生の時は行事が全てなくなりまして。しかし、2年生では数々の縛りがありながらも研修旅行や体育祭をすることができました。それでも友達と楽しく過ごせたのでいい思い出になりました。

親元を離れて3年間、寮で生活するということに対して、最初とても迷いました。洗濯やご飯などを一人でやるのが不安でしたが、両親が大丈夫と何回も声をかけてくれたおかげで、今では実家に帰省した時には洗濯を手伝ったり、ご飯作りを手伝ったり、血洗いたり成長できたことがたくさんありました。

また進路のことで相談に乗ってくださいました先生方、3年間バスケットボールを熱心に教えてくださった先生方。一緒に頑張ってきたチームメイト。そして、どんな時もサポートしてくれた両親にはとても感謝しています。この高山西高等学校でしかできなかった経験を糧にして、これからも頑張っていきたいと思っています。3年間ありがとうございました。

## 「感謝」

3年F組 角川結月

私にとって高山西高校での学校生活は、意味のある3年間だったと感じます。高校生活がコロナ禍という過去に類を見ない状況で始まり、休校やリモート授業、西高祭や体育祭などの行事が制限され、満足のいく学校生活ではなかったかもしれませんが、私にとっての高校3年間は、高山西高校でよかったと思えるものでした。

私にとって学校生活というものは特進1クラスを希望したこともあり、勉強が中心の生活でした。中学生のときに部活動を軸に生活していた自分にとっては、朝の早い時間に始まり、遅い時間までずっと授業があることに加え、授業内容も速く、課題の多い特進1クラスの生活は慣れるのに時間のかかる環境でした。ですが、そんな環境でも周りには目標に向かって一緒に頑張っている仲間があり、先生方も分からないところを聞けば丁寧に教えてくださるという幸せな環境に自分はいったんだなと思います。

また、進学に関しても入学当初、なりたいたい職業はあったものの、どうしてその職に就きたいのか？なにをしたのか？と聞かれると明確な理由もなく、ただ漠然とやってみたいなあと思っているだけでした。しかし、高山西高校で過ごした3年間は進路について考える時間が多く設けられており、1年生の頃から将来何がしたいのか考える時間や直接話を聞いたりする機会があったため、大学の情報をたくさん集めることができました。また、2年生のときには探究飛騨の時間で自分に興味のある事柄について調べ、大学生の方々にも話を聞くことができたため、より自分のやりたいことが何なのかを考えることができました。

このような活動を通して、どんな人がどんな質問を私にしてきても相手を納得させられる、と言えるくらいには自分の将来の夢について自信を持つて話すことができるようになったと思います。

受験期には、1・2年生のときと比べて先生方にも友達にも本当に助けられました。先生方には朝の早い時間や、夜の遅い時間にも自己申告書の添削やレポート作成の練習、面接などいろいろなこととお話になりました。また受験の前日には背中を押してくれるような言葉をくださり、それが受験当日でもとても励みとなりました。また友達にも志望校を決める前から相談に乗ってもらったり、面接練習などに加え、精神面でも助けてもらったなと思います。合格したときには報告すると先生方は自分のことのように喜んでくださり、友達も一緒に喜んでくれたので本当に嬉しかったのを覚えています。ここまで支えてくださった先生方にも友達にも感謝してもしきれないくらい本当に感謝しています。

高山西高校での学校生活を振り返ってみると、制限された生活の中でも自分のことについてじっくりと考え、色々なことを学べた3年間だったなと思います。これからは全く違う生活に変わっていくので、高山西高校での生活を活かして精進していきたいと思っています。



# 「挑戦」

3年J組 森 文那

胸を高鳴らせながら入学した3年前。つい最近のことのように思えるほどあっという間に時は過ぎていき、この春卒業を迎えます。私は剣道で日本一になるために実家の愛知県を出て、この高山西高校に入学しました。思いきって親元を離れたものの、不安なこともやからないうことが多く、時には寂しさを感じるときもありました。しかしこの3年間は自分にとって大きな挑戦となり、誰よりも濃い時間を過ごすことができたと思います。

入学した次の日には新型コロナウイルスの影響で約2か月間休校になり、クラスの仲間とは少し遅れたスタートを切りました。誰も予測していなかった状況の中で馴染めるか不安でしたが、常に笑いが絶えず優しい雰囲気に包まれたこの温かいクラスが大好きでした。去年の体育祭ではサブに参加し、団の仲間と毎日練習を続けて最後の体育祭を盛り上げ、最高の思い出を作ることができました。またクラスの担任である雅先生には、とてもお世話になりました。元々英語を学ぶことは好きだったけれど、雅先生の授業を通して英語というものに正面から向き合ったことにより、自分の英語の実力が上がっている感覚があって、英語そのものの魅力に気づくことができました。また1年生の頃は要領が悪く、課題を終わらせること、授業のスピードについていくことに精一杯でしたが、プランを立てて計画的に進めていくことを学んでからは、課題以外の勉強に取り組む時間が作れるようになりました。決して楽な道ではなかったけれど、このクラスのメンバーと高め合いながら、協力しながら乗り越えたこの3年間はかけがえない財産になりました。



部活動では、一番大きな挑戦ができたと思います。インターハイや本国体で一番になれなかったことは今でも悔しく思えるけれど、仲間と死ぬ気で頑張った日々はこれからの人生の糧となる経験になりました。しかし、同じ目標をもつ仲間と一緒に寮生活をして、朝から晩まで稽古するという生活は想像していた以上に大変でした。

一人一人が本気で剣道に取り組んでいる分、ぶつかることも多かったからです。高校剣道の団体戦はチーム内の繋がりがとても大事になることは分かっていたながらも、メンバーに対して素直になれなかったり、悩みを共有できずに一人で悩み込んでしまったりして壁を乗り越えられないまま試合に出て、負けてしまったこともあります。ですが、自分の何かを犠牲にしてまで「全員で勝ちたい」と思う気持ちは一緒であったため、お互いを信じて無我夢中で竹刀を振って毎日乗り越えてきました。一緒に笑って泣いて悩んで本気でぶつかりあったからこそ、どのチームよりも一枚岩になって戦えたんだという今改めて感じています。また、最後まで熱心に指導してくださった顧問の前川先生、

どんなときも私たちが本気で向き合ってくださった前川先生に本当に感謝しています。必死に頑張る理由は自分のためでもあったけれど、先生の喜ぶ顔が見たい。先生と日本一の景色を見たいという思いが私の原動力にもなっていました。辛く苦しかったことの方が多かったけれど、先生を信じてついていって心の底から良かったなと思っています。

この高山西高校に入るというのは、私にとって大きな決断の一つでした。昔から大雑把な私がここでやっていけるのか不安だったと思うけれど、私の進みたい道を快く受け入れて、全力でバックアップしてくれた家族には本当に感謝しています。思春期の私は、強がって素直に言えないことが多かったですが、それでも私の一番の味方でいてくれて、嬉しいことがあったときは私よりも喜んでくれて、離れていてもたくさんの愛情を注いでくれました。私の挑戦を最後まで支えてくれたありがとう。

「挑戦」をすることは勇気がいることかもしれませんが、ですが私自身、この3年間様々なことに全力でチャレンジしたことは自分を誇らしく思えるきっかけになりました。支えてくれた方々への感謝を忘れず、また今までの出会いを大切に、これからも頑張っていきたいです。



PHOTO LIBRARY  
西高フォトライブラリー

# 卒業生へ、贈る言葉



### 3 A 担任 下畑耕一

卒業おめでとうございます。  
君達は、「コロナ禍」で入学、そして、入学早々休校……そんな高校生活の最初でした。先に行き不安を感じつつも、高校生になった君達と一緒にスタートした4月。時間が経つのは早い……よく言われることですが、本当にそう感じています。

この卒業は終わりはなく、「スタート」です。君達の人生は、ここから本番です。今まではできなかったことにチャレンジしたり、感じたことのない不安や困難にぶつかることもあると思います。その出来事一つひとつを楽しみ、自分らしさを忘れることなく頑張ってください。応援しています。  
卒業おめでとう！

### 3 B 担任 菅沼孝司

卒業おめでとう。この3年間、「コロナ」が始まり、「コロナ」で終わりました。でもこういう環境下でも成長してくれました。行動制限の中で前向きに何かを模索し実行しました。前進思考の考えになりました。「コロナ」を理由に逃げませんでした。我慢する心が育ちました。周りの人の事を考えて行動していました。思いやりの心が育ちました。等々。  
君たちは逆境の中でもたくましく生きる力を持っている。今後も更に成長し、ますます活躍してくれることを期待しています。

### 3 A・3 B 副担任 池上正巳

2020年入学の諸君へ。君たちは今後「コロナ世代」と言われるでしょう。しかし「むしろコロナ世代」と言われるのではなく、「必ず「コロナ世代」と言われるように、この新しい経験を生かして欲しい。人の成長は環境に影響されることもあるが、最終的には自分自身の意思・決定・行動で決まるものです。  
今後の皆さんの活躍を期待します。卒業おめでとう。

### 3 B 副担任 元田尚美

卒業おめでとうございます。晴れやかな姿を見て送り出せないのが残念です。皆さんの笑顔や温かい声、頑張る姿は私にパワーを与えてくれました。ありがとうございました。昨年の修学旅行は私にとっていい思い出です。  
I wish is above wealth.  
皆さんの今後の更なる活躍を心より応援しています。

### 3 F 担任 橋下大介

卒業おめでとうございます。  
「コロナ禍」と共にあった3年間の学校生活では、たくさん苦労や挫折もあったことと思います。そんな中でも、地道に努力を続けてきた皆さんを誇らしく思います。高山西高校での経験の一つ、勉強に懸命に取り組んだ日々が今後の人生の糧となることを期待します。これから先、皆さんにはたくさんのチャンスが巡ってきます。恐れず思い切ってチャレンジしていきましょう。みなさんの今後の活躍を楽しみにしています。

### 学年主任 3 G 担任 岩坂 晋

この学年は、入学式から卒業式までの3年間、「コロナ禍」で生活してきた。そんな君たちから感じ得たことは沢山ある。若さゆえのパワー、プライド、仲間とのチームワーク、無限の可能性などなど。5年後・10年後のさらなる成長が期待できるメンバーが揃っていた。例年とは違い、制限下での勉強・部活動・学校行事ではあったが、忙しくも充実した日々を過ごして、心身ともに鍛えられたことだろ。今まで誰も経験したことのない「コロナ禍」の高校生活を乗り越え、今日という日を迎えることができた。西高で仲間とともに学び、大きく成長できたことを自信と誇りにして欲しい。そして、もう一つ「誰かのために汗と涙を流し、頑張ることのできる人」であってほしい。卒業後、さらに成長した姿で母校に顔を出してしてくれることを楽しみにしている。  
卒業おめでとう。

### 3 F・3 G 副担任 野村 国広

卒業おめでとう。「普通の生活」という言葉の尊さ、ありがたさが身に沁みたる3年間でしたね。高校生活で得たことは大きな財産であることを自覚して、失うことなく継続してくださう。仕事など追いつかなくなったとき、私は人生の先輩たちに教えて頂いた次のような言葉を自分に言い聞かせます。「心配するな、なんとかなる」「まわりの言葉に耳を傾けてみる」「そして二度に「一つ」。これからの人生は決して平坦な道のみではないと思いますが、一つ一つのプロセスを大切に頑張ってください。

### 3 H 担任 山下 祐輝

過去は消えず、未来は読めず、不安が付きまとう、ただけ明日を変えていくのなら今、今だけがここにある。

これは、とある曲の歌詞の一部分です。過去の失敗も、今この瞬間を頑張れば、必ず良い方向に変わるチャンスを得られます。その機会を見逃さないように、どんな時も前を向いて、頑張ってください。今後の長い人生、積極的なチャレンジを通して得た経験をプラスに捉え、行動できた人物が成功者となります。この3年間を通して、皆さんからたくさんのごことを学ばせて頂きました。ありがとうございました。  
高校卒業おめでとう！！

### 3 H 副担任 田口 喜恵

3年間の貴重な青春時代。悔しい気持ちを飲み込んで、仕方がないよと諦めたことがたくさんあったかと思えます。だけど、人生は一度きり。自分が成し遂げたいことは、絶対に諦めないで下さいね。何歳になっても挑戦し続け、勉強し続け、みなさんが自分だけの人生を謳歌することを心から願っています。  
卒業おめでとう！！

### 3 I 担任 蟹江 信介

卒業おめでとうございます！  
これから新しい生活が始まります。就職して働く人、進学で一人暮らしを始める人など、自分で決めた道をしっかり責任を持ってください。楽しいことや辛いこと、戸惑うことがあるかと思いますが、高山西高校で学んだ3年間を生かし「自分に敵し〜」して頑張ってください。応援しています！  
また、いつでも高山西高校に遊びに来て下さい。

### 3 I 副担任 塚崎 真也

「Take chances, make mistakes. Sometimes it's important not to be perfect; it's important to do the wrong thing. To find out what's real and what's not. To find out what you feel!」  
「冒険して失敗するのよ。完璧ではなく間違いをすることも大切な。間違いを犯して、自分という人間を知るの。」  
これは、時々私が思い出す映画のセリフです。みなさんと関わった1年間は、人生で初めて学校で動いて色んな失敗をして、自分の限界を痛感することの連続でした。辛いと感じるときもありましたが、その限界を超えて自分のできることを広げていきたいと前向きに感じることもありました。これから新生活を始めみなさんも、冒険をして色んな失敗をするなかで、自分という人間を知ってってください。

### 3 J 担任 ブレイルスフォード 雅

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございませう。  
The man who goes the farthest is generally the one who is willing to do and dare.  
(成功する人間とは、たいていの場合、自ら果敢に挑む者だ。)  
By Dale Carnegie (テール・カーネギー著述家)

感謝の気持ちを持ち、自分の持っている才能を磨き、それを人のために生かせる人を生を歩んでいけるといいですね。

### 3 J 副担任 脇田 修宏

同じ耐えることでも、「辛抱」と「我慢」は意味が違うそうです。前者は、夢や目標を叶えるためだと思つて前向きに耐えること、後者は、他人に言われたことなどに嫌な仕方がなく耐えることだぞです。これから今まで以上に耐えて頑張らなければならぬことが増えてきます。今までの自分は、「辛抱」「我慢」のどちらでしたか？  
「辛抱」を見つけて頑張ってくださいませう！  
卒業おめでとうございませう。

## 編集後記

3年生のみなさん、この度は卒業おめでとうございます。  
思い起こせば、入学直後から休校という異例の高校生活のスタートとなつたこの学年。夢・希望・不安……様々な思いを胸に高校生活が始まる。という、いわゆる普通のスタートではありませんでした。授業はオンラインで受け、部活動の大会はなくなり練習も個人練習となりました。親としても本当に気の毒に思いました。

しかしそんな中でも先生方は生徒を励まし、出来ることを一杯してくださったと思いますし、また子どもたちも現状をしっかりと受け止め「いつか必ず……」という思いで、勉強や部活動の自主練習に取り組んでいたと思います。

保護者の皆様にも、たいへんご苦労やご心配があったと思います。しかし、私たちが経験した高校生活とはまるで異なる3年間を過ごした彼らは、きつと彼らなりに未来を見据え、前向きに人生を送ってくれることと信じています。これはこれで、貴重な成長の糧になったと私は思います。

先生方、本当に3年間ありがとうございました。ごさいます。我々保護者にはわからないご面倒がたくさんあったことと思ひますが、見捨てることなくご指導いただいたこと、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、この第45号の発行にあたり、ご協力頂きました皆様にお礼申し上げます。  
(文化委員長)

